

(仮称) 中央図書館基本構想 骨子 (案)

令和2年(2020年)2月

豊中市教育委員会事務局読書振興課

1. 豊中市および豊中市立図書館の概況

1-1 豊中市の概況

【市の特性(第4次豊中市総合計画より)】

- 教育・文化に対する市民の高い関心
- 優れた交通利便性
- 良好な住環境
- 活発・多様な市民活動

【人口推計(豊中市まち・ひと・しごと創生人口ビジョンより)】

- 直近は約40万人と横ばいで推移すると見られるが、20年後の令和22年(2040年)には約37万人と3万人程度の減少が見込まれる。
- また、その間で65歳以上の老年人口比率は、現状の26%から32%まで上昇する見込み。

【公共施設を取り巻く状況(公共施設等総合管理計画より)】

- 財政負担の軽減と持続可能でより良い公共サービスの提供を目的に、現状の80%という施設総量フレーム(公共施設の延床面積の枠組み)を設定し、そのなかで施設の更新や複合化を推進するものとしている。

1-2 豊中市立図書館の概況

【施設・体制】

- 岡町・庄内・千里・野畑の4地域館を中心に、他5つの図書館、2つの図書室、動く図書館1台で全域サービスを提供。
- 築50年が経過している岡町図書館をはじめ、各施設の老朽化に伴う全体の更新改修計画について検討が必要な状況。
- 南部地域では、(仮称)南部コラボセンター整備に合わせ、庄内・庄内幸町図書館を統合予定。

【蔵書】

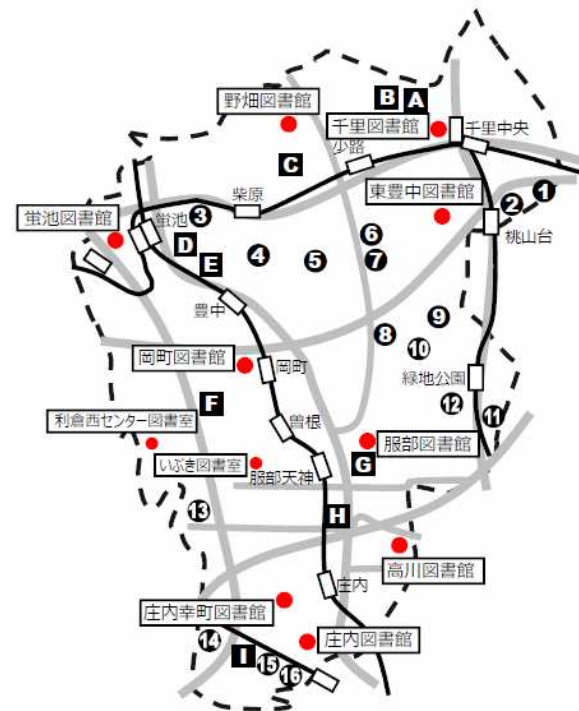
- 蔵書冊数は約100万冊。中核市平均をやや上回る蔵書規模。
- 蔵書新鮮度は中核市平均よりも高い。

【利用】

- 年間の個人貸出冊数は約350万冊。貸出冊数、蔵書回転率ともに中核市2位と、貸出利用が多い。
- 登録率は約37%で、中核市平均(約39%)をやや下回る。
- 児童書の貸出冊数(約110万冊)は年々増加傾向。

【サービス】

- 地域館体制による暮らしの課題解決支援サービスや、市民協働による多様な事業を実施している。



2. 豊中市立図書館の現状と課題

2-1 図書館の現状分析

強み・特長	項目	弱み・課題
・身近に図書館のある環境 ・全館で一定のサービス水準を満たす	施設	・資料や人員の分散 ・施設の老朽化や今日的ニーズへの対応
・学校図書館との連携 ・子ども向けサービスの充実	特徴ある取組み	・新たな課題や利用者層へのアプローチ ・情報発信やPR力
・蔵書回転率の高さ	蔵書・選書	・書庫不足
・関係団体やボランティアの方々の協力	市民協働・人材育成	・職員間での経験、ノウハウの共有と継承

2-2 市民アンケート結果(郵送による無作為調査)

- 対象: 15歳~89歳の市民3,000人 回収: 829票(回収率27.8%)
- 資料閲覧スペースの充実のほか、飲食スペース・子どものスペース・自習室などに関するニーズが高い。
- 今後のあり方としては、駅などに貸出・返却ポイントを設置すべきとの回答が41.5%。施設の集約を選択した人が32.2%、現状維持を選択した人が19.3%。

2-3 来館者アンケート結果

- 対象: 市立図書館来館者1,995人(中学生以上) 回収: 1,681票(回収率84.3%)
- 閲覧スペース、飲食スペース、子どものスペース、静かな読書環などのニーズが高い
- 今後のあり方としては、蔵書の充実を優先すべきとの回答が33.8%、現状維持を選択した人が33.1%、駅などに貸出・返却ポイントを設置すべきとの回答が32.3%、施設の集約を選択した人が27.6%。

3. 公立図書館を取り巻く動向

3-1 図書館政策

国や府では、子どもの読書活動、障がい者への配慮、図書館行政の首長部局移管、オープンデータ化などに関する政策を展開。北摂地域の広域利用のほか、府内他市ではネーミングライツや指定管理者制度の導入など、効果的・効率的運営に向けた政策を展開。

3-2 図書館の整備事例

自治体	施設名	特徴
愛知県大府市	おおぶ文化交流の杜図書館	ホールとの複合施設、郊外の新興住宅開発とも連動
愛知県安城市	安城市図書情報館	施設整備はPPP/PFIにより実施、運営体制は直営を継続
東京都荒川区	ゆいの森あらかわ	仕切りを設けない「ひろば」的な空間設計、子育て支援機能
兵庫県伊丹市	伊丹市立図書館ことば蔵	図書館と市民が連携した交流フロアでの多彩な事業展開

4. 豊中市立図書館のあり方

4-1 図書館のコンセプト

つながる。わたしの図書館で。

市民のニーズや抱える課題が多様化・複雑化している今、
図書館は「つながる」という機能を大切にしたいと考えています。
知や情報、本と人をつなげる。人と人、地域や組織がつながる。過去と今、そして未来をつなぐ。
つながることで新しい可能性をひらき、暮らしをより豊かにする。
そして、明日のとよなかへつながる種をまく。
誰もが、自分なりに使い、楽しみ、つながる図書館へ。
豊中市立図書館は、すべての人の「わたしの図書館」であることをめざします。

4-2 方針と具体的な取組み

	方針	具体的な取組み
①	(仮称) 中央図書館を	●
	令和2年度の議論を踏まえて、これからの豊中市立図書館がめざすべき方向・方針と、それに基づく具体的な取組みをまとめる。 (例) ○ (仮称) 中央図書館を中心とした施設再編 ○ 施設の更新等に備えた財源の確保 ○ 広報・PRの強化による新たな利用者層の開拓	
⑤	財源の確保	●

5. 施設配置

5-1 施設配置の基本的な考え方

- (仮称) 中央図書館の整備とこれを中心としたサービスネットワークの再構築
- 機能別の利用圏域に基づく階層的な施設配置
- 施設の老朽化への対応とハード面における今日的ニーズへの対応
- 施設総量フレーム内での再編や、複合化の推進など、豊中市公共施設等総合管理計画の趣旨に沿った再配置

5-2 階層ごとの機能・施設イメージ

令和2年度の議論を踏まえて、「階層（例：中央館、地域館、・・・）」について定義付けを行ったうえで、それぞれの

- 役割と機能（提供するサービス）
- 想定規模
- 蔵書数と書庫の規模
- 施設配置（立地エリア・施設数）

をまとめる。

特に、(仮称) 中央図書館については、想定される整備手法（PPP等）や特徴的な整備方針についても記す。